

6. 行政需要の整理

(1) 公共施設としての活用の検討

本市では、各所属で抱えている課題や懸案事項の解決に向けた活用の意向を把握するため、令和4年12月に全庁に対して意向調査を実施しました。

その結果、5課から活用希望があり、高麗小学校、高根中学校、旧武蔵台中学校の順で希望が多い状況でした。

具体的な活用方法としては、文化財・市史編さん資料の貯蔵庫、地域住民の健康増進の場、地域部活動の活動拠点などのほか、防災の観点から避難所機能を維持する提案もありましたが、そのほとんどが施設の一部のみの活用を希望する内容でした。

(2) 各調査結果等を踏まえた行政需要の方向性の検討

空き施設の活用に当たっては、上位計画である公共施設再編計画において、「時代の変化に対応した行政サービスを継続的に提供すること」、「人口減少社会の中で持続可能な行政経営を実現すること」、「将来世代に財政負担を先送りしないこと」という3つの基本的な考え方を定めており、これらに基づいた公共施設再編を着実に進める必要があります。

また、市民アンケート調査では、「3校全てで民間事業者等を導入した方がよい」という回答が最も多かったことから、跡地活用に当たっては民間事業者等による活用が望まれています。

これらのことから学校跡地の効率的かつ有効な活用を図るためには、民間事業者等による跡地全体の活用が望ましいと考えますが、その一方で、庁内における空き施設の活用意向調査や、民間事業者等に対するサウンディング型市場調査では、施設の一部を活用する提案も多く寄せられました。

これらを踏まえ、3校のうち1校は、行政と民間事業者等が共用する施設として活用する案も検討の余地があると考えます。

なお、公共施設として活用する場合は、公共施設再編計画に基づき、公共施設の総量最適化や更新コストの削減を図る必要があるため、既存公共施設の統合や集約化等を前提に検討する必要があります。

(3) 行政と民間事業者等が共用する施設の検討

これまでの各調査の結果、高麗小学校に関しては、行政需要及び民間需要ともに「活用希望が最も多く、施設の一部の活用希望も多いこと」、市民アンケート調査では「観光施設としての活用が最も望まれていること」、市民懇談会では「市内外から人が集う場としての活用意見が多いこと」などが要望として挙げられています。

また、本市としても、引き続き巾着田でのイベント等、観光関連用途として使用できるようにしておくことが望ましいと考えます。

以上のことから、高麗小学校を行政と民間事業者等が共用する施設として優先的に検討すべきと考えます。